

スギ

いそのかみ ふるのの かんすぎ かん
石上 布留の神杉 神さびて

恋をもわれは 更にするかも 柿本人麻呂

山の辺の道の人気コースは、石上神宮(神剣・布留御魂が御神体)から大神神社(日本最古の神社。三輪山が御神体。主祭神は倭大物主櫛瓊玉命)に至る道である。沿道には万葉集ゆかりの場所や、崇神天皇、景行天皇の陵、さらに周辺には纏向遺跡、箸墓などがあり、古代を偲ぶ春の散策にはいかにも相応しい。この道で相聞歌を詠んだこともある人麻呂はすでに年老いて、自らを石上神宮の古い杉に譬えている。それでもなお、恋心だけは残っているよと、恐らく宴席でユーモアを込めて詠ったのかもしれない。石上神宮には今でもこの神杉が屹立している。

スギは日本原産の長寿の樹木である。その語源は『大和本草』に「木直ナリ、故スキト云。スキハスク也」とあるように、真っすぐに育つことから来ている。その説を裏付ける史料が古代叙事詩『秀真伝』にある。「奇彦命は 大和山辺に 殿造り……三諸の山に 洞掘りて 天の逆銚 提げながら 入りて鎮まる 時お待つ 直ぐなる主お 見分けんと 直ぐな印の 杉植ゆる」とある。『秀真伝』によれば、奇彦命は大己貴尊の御子で、第 2 代大物主である。大物主は物部を統括する総理大臣クラスの役職であり、代々子孫に引き継がれている。大神神社の主祭神・櫛瓊玉命は第 6 代大物主に当たる。ちなみに櫛瓊玉命が『秀真伝』の前半(神武朝まで)を、さらにその子孫である大直根子命が、その後半(景行朝まで)を上奏している。大神神社の摂社として、大直禰子神社もある。さて奇彦命は、天照大神から授けられた逆銚を携えて、三諸山(三輪山)の洞窟に入り、心の透き通った素直な人を見分けようと、真っすぐに杉を植えて身罷るのである。大神神社の神紋が三本杉であることは、この故事を裏付けている。

大神神社の摂社である檜原神社には人麻呂の歌碑「古の人の植えけむ 杉が枝に 霞たなびく 春は来ぬらし」がある。大物主奇彦命の故事を知っていたとするなら興味は尽きない。なお、杉の枝に霞がたなびくとあれば、想起するのは杉花粉である。春霞は生気が漲る春に見られるが、昔から黄砂や杉花粉も飛んでいたはずである。しかし古代人が杉の枝の霞に悩まされたという話は聞かない。昭和の戦前戦中そして戦後の高度成長期にも花粉症は目立たなかった。成長が止み、ハングリー精神やときめきがなくなった豊かな時代に入って、突如花粉症が一世を風靡し始めた。世界のアトピー性皮膚炎の有症率をみても、紛争当事国や発展途上国には少なく、北欧、オセアニア、日本のような豊かな国に多いのである。杉花粉の性質が変わったのだとする説もあるが当てにはならない。杉花粉を憎むあまり、生態系を乱す杉の植樹がいけないのだと、杉そのものがとぼっちを受けている。杉の巨木を見るがよい。襟を正さざるを得ない感興に包まれるではないか。

スギ舌下免疫療法治療薬が、昨年 10 月に健康保険の適応になった。同種療法の典型である。以前、杉の花を煎じて飲むと花粉症がよくなったという患者を診ているので効果もあるのだろう。但し高価である。もっと安い治療法がある。禊である。入浴後にシャワーで 10 秒以上水を被ればよい。以前から唱えているので、いつだったか学会のとき、「水を被ったら自分も息子もアレルギーが良くなった」と MR さんから声を掛けられた。見知らぬ店員からお礼を言われたこともある。『秀真伝』ではこう述べている。「心を明かす歌の道、禊の道は身を明かす(心を健康にするのは和歌であり、体を健康にするのは禊である)」と。年寄りの冷や水を訝る方には、人麻呂の恋のときめきをお勧めしよう。

(山人)

